

2025年
vol.96

金沢脳神経外科病院通信

クローバー

北陸の地に戻って

今年の4月から金沢脳神経外科病院に勤務し、あっという間に半年が経ちました。高校を卒業して北海道へ渡ってから、気がつけば17年ぶりの北陸です。久しぶりに戻ってみると、やはりこの空気、この湿り気、この風の冷たさ——どこか懐かしく、身体が少しずつ思い出してきたように感じます。

北陸に帰ってまず驚いたのは、魚介類の違いでした。北海道の魚もちろん絶品ですが、あちらではホッケやホタテが主役で、アジをスーパーで見かけることはほとんどありません。最近では地球温暖化の影響で釧路でもブリが獲れるようになったそうですが、「ブリの食べ方がわからない」と地元の方が困っていたというニュースを見て、思わず笑ってしまいました。食文化の違いって本当におもしろいですね。いまは北陸の海の幸を存分に味わいながら、帰ってきた実感をしみじみと噛みしめています。

この17年間で、脳神経外科の世界も大きく様変わりしました。私が学生のころは、脳の血管が詰まってしまうと、どうすることもできずに命を落とす患者さんが少なくありませんでした。ところが2009年、日本で初めて「機械的血栓回収療法」という治療が導入され、頭の中の血栓を直接取り除けるようになりました。以来、装置の進化とともに治療成績もどんどん向上し、今では脳梗塞の治療はまったく新しい時代を迎えています。

脳動脈瘤の治療も大きく変わりました。脳動脈瘤は日本人のおよそ100人に1人が持つと言われ、一度破裂すると重いくも膜下出血を起こします。1970年代に顕微鏡手術が普及して以来、「クリッ

ピング術」という頭を開けて動脈瘤に金属のクリップをかける手術が標準治療でした。日本の外科医の技術は世界的にも非常に高く、多くの命が救われてきました。

ところが2000年代に入り、「コイル塞栓術」という

血管の中から治す方法が登場します。2002年の国際研究で従来の手術に劣らない効果が示され、一気に普及しました。今ではさらに進化した「フローダイバーター」や「WEBデバイス」といった新しい選択肢も登場し、患者さん一人ひとりに合った治療を選べる時代になっています。

そしてこれからは、再生医療や人工知能(AI)の時代へと進んでいきます。脳卒中で傷ついた神経を再び再生させようという研究が進み、少しずつ成果が見え始めています。AIもまた、治療方法の選択や画像診断、さらにはロボット手術の支援など、医療のあらゆる場面で活躍するようになるでしょう。

北陸に帰ってきたこのタイミングで、医療もまさに新しい局面を迎えています。これからも患者さんに寄り添いながら、進歩する医療の力を地域のために活かしていけたらと思っています。



脳神経外科部長
もりしま ゆたか
森島 穰

第8回 親子脳卒中教室をオンラインで開催しました

今年も「親子脳卒中教室」をオンライン形式で開催し、今回で第8回を迎えました。小学生から中学生の児童とその保護者、さらに一般の方々にご案内し、合計101組ものご応募をいただきました。プログラムは全3部構成で、事前に収録した講義や寸劇をYouTubeで配信し、参加者の皆さんには脳卒中に関するクイズにも挑戦していただきました。楽しく学びながら、脳卒中への理解を深めていただける内容となりました。

第1部 金沢大学附属病院 上出 智也先生

子供さんにもわかりやすいように金沢大学附属病院の脳神経外科医師 上出先生に講義していただきました。



第3部 のうのう先生による脳卒中クイズ

第1部の講義と第2部の寸劇をご覧いただいた後、参加者の皆さんには10問の「脳卒中クイズ」に挑戦していただきました。

クイズはWEB上で回答できる形式とし、楽しみながら脳卒中について学べる内容にしました!



第2部 お医者さんたちの劇「しっとかんと脳卒中」

当院の脳神経外科医6名を中心に、子育て中のお母さんが脳卒中を発症したという想定で寸劇を行いました。「もし自分の家族が脳卒中になったらどうすればよいか」をテーマに、ユーモアを交えながら、楽しく学べる内容となりました。参加者の方々からは「わかりやすくて印象に残った」といった感想も多く寄せられました。



他の医療機関では来場型のイベントも開催されていることから、当院でも来年こそは対面での開催を目指しております。次回も、子どもから大人まで楽しみながら脳卒中について学べる教室を企画いたしますので、ぜひご参加ください。

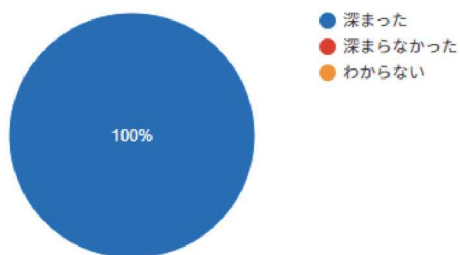
参加後のアンケート結果やご意見

イベント参加後にアンケートに答えていただきました。

回答者数：84名

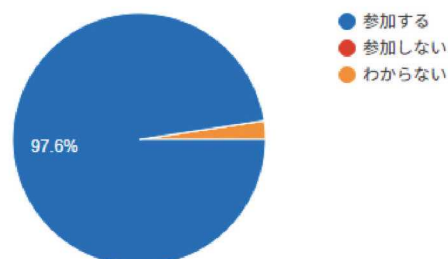
保護者（大人のみも含む）の方は脳卒中に理解が深まりましたか？

84件の回答



またこのようなイベントがあれば参加したいですか？

84件の回答



いただいたご意見を一部ご紹介します！

焦らず119に電話することの大切さを学びました。
子どもも“言葉が出にくくなったら119”と覚えていました。大人も勉強になりました。

劇がとても面白く、わかりやすかったです。
小さい子どもでも夢中になって見ていました。楽しく脳卒中について学びました。

クイズで復習できて覚えやすかったです。
第1部・第2部の内容を振り返りながら答えられて、親子で盛り上がりました。

父が脳出血になった経験があり、子どもと一緒に学べてありがたかったです。
病気への理解が深まり、改めて早期対応の大切さを感じました。

4歳の子どもが『119』を覚えました！
映像や効果音で飽きずに最後まで集中して見られました。

お医者さんの説明と劇で、家族で話し合うきっかけになりました。
“こんなときは何番に電話する？”など、家族で確認できて良かったです。

実際の治療や手術の映像がとてもわかりやすかったです。
子どもにも理解しやすく、貴重な体験になりました。

来年も参加したいです！
家族で楽しく学びました。ぜひ来年も参加したいです。

保育園児でも楽しめる工夫がされていました。
劇が印象的だったようで、子どもなりに感じたことを話していました。

脳卒中にならないよう、生活習慣を見直そうと思いました。
食事や運動の大切さを家族で考えるきっかけになりました。



金沢脳神経外科病院の活動報告をお届けします



耳寄りな講演会 in 長町公民館(10/17)

10月17日に長町公民館で、リハビリテーション部 土山部長(理学療法士)による「膝痛、腰痛をなくそう!1分でできる予防体操」を開催しました。お天気も良く、参加者25名と一緒にスクワットなど家でもできる簡単な体操に取り組みました。まずは自分の体の痛いところを知ることで、どのような体操が効果的かを理解し、継続して行うことの大切さを学びました。講師からは無理をしないように気を付けて行うよう話がありました。

耳寄りな講演会 in 馬場公民館(10/28)

10月28日に馬場公民館で、地域医療福祉部 筆矢副部長(看護師)による「脳卒中について楽しく学ぼう」を開催しました。参加者19名と一緒に、医師による病気の説明動画を見ながら理解を深め、さらに理学療法士によるロコモコ体操にも取り組みました。最後に脳卒中クイズで今回の振り返りと脳卒中予防の復習をしました。質疑応答では脳ドックや受診に関する質問も多数あり、脳卒中予防を心掛けたいとの意見が寄せられました。



令和7年度避難訓練(10/27)

10月27日に、「令和7年度 避難訓練」を行いました。深夜に3病棟より火災が発生したと想定し、火災報知器が作動するとすばやく発見者が初期消火を行いました。消防署への通報や患者役の職員を車いすやエアストレッチャーなどで避難誘導し、消防隊に全員避難が完了したことを報告しました。講評では消防隊より、「待て」や「ダメ」などのハンドサインを決めておくことも大切だと話がありました。



病院
理念

私たちは脳神経外科医療の専門家として十分な医療を提供し社会に貢献します。



医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院

石川県野々市市郷町262-2
TEL:076-246-5600 FAX:076-246-3914
<https://www.nouge.net>

金沢脳神経外科病院 広報誌 第96号 発行:広報委員会
2025年11月28日発行